

平成21年度 学校総合評価

6 今年の重点目標に対する総合評価

本校は明治34年（1901年）4月富山市総曲輪に富山県高等女学校として設置された。その後、明治40年4月には富山県立富山女子高等学校と改称し、さらに大正6年4月に現在地堀川小泉へ移転した。昭和23年8月31日から一時、富山県高等学校統廃合計画の実施に伴い閉校されていたものの、昭和31年4月1日再び富山女子高等学校として復活開校された。平成13年（2001年）5月創立100周年式典を挙行了した後、翌平成14年4月には富山いずみ高等学校と改称し、総合学科と5年一貫教育の看護科との2学科編制で男女共学の学校となった。平成23年（2011年）には創立110周年記念式典が予定され、百有余年の伝統に対する誇りと同時に新しい教育体制のもと、本校の掲げる「教育目標」

豊かな知性と情操を育み、自主自立の精神に富む、未来を切り拓くたくましい人間を育成する。

校訓 心明るく 誠実であれ
行い正しく 勤勉であれ
志高く 聡明であれ

を具体化した「教育方針」及び「学校経営計画」に基づいて特色ある教育実践に努めている。

本年度は、上記目標を達成すべく、「学習生活の充実」「学校生活の充実」「進路支援の充実」「特別活動の充実」「進路支援（看護科教育の充実）」の5分野、合計14項目にわたって重点目標を設定して教育活動を行った。各項目は、主管分掌担当者はもとより全教職員が連携して目標達成に努めた。その結果、達成度評価は以下のようになった。

（各項目毎の評価） 評価 A 5項目 評価 B 6項目 評価 C 3項目

平成22年2月23日に開催した学校評議員会では、各評議員から校内評価以上の高評価をしていただいたこともあり、全体としてはほぼ本年度の目標は達成されたものと考えられるので

（総合評価） B

とした。

しかし、卒業後の進路実現に欠かすことのできない「学習活動」において、授業に対する生徒の満足度はほぼ目標を達成したものの、家庭学習時間の確保については学年によって大きく異なり、全体として目標を下回っている。

これら、本年度の結果を踏まえ、明年度以降も本年度達成できなかった目標の達成を目指すとともに、新たな達成目標を通じて、健全な社会人としての成長を図っていく必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

総合学科への進学動機は、普通科的指導を期待して入学した者40%（保護者56%）、総合学科の多様な授業内容に魅力を感じて入学した者36%（保護者20%）、富山県女学校以来の伝統に惹かれて入学した者17%（保護者24%）と多様である。これに併せて、卒業後の進路志望や学習に対する意欲・態度も様々である。これら多様な生徒が在籍しているため、生徒・保護者の入学動機や進路志望に応じたきめ細かい対応が求められる。そのため、学校設定科目を含め多様な選択科目を設定し、授業展開も少人数による指導を心掛けている。さらに、2人担任制を取るなど面接指導を重視し、個々の生徒に応じた指導をしている。県立学校振興計画に基づく学校再編の議論の中で総合学科も議題に上ることが予定されていることもあり、明年度以降もこれらの取り組みを充実発展させていく必要がある。

看護科へ入学した生徒の多くは、看護師や助産師などになることを目指して自ら本校の看護科を志望して入学

している。しかし、専攻科2年を含めて5年間の中で、少数ながら看護師としての適性に疑問を抱いたり、看護師国家試験を目指した授業内容に不応を示したりして、入学時に持っていた看護師への憧れを失う生徒がいる。看護科の生徒は、病院などの実習を通して大きく成長していくこともあり、在校生同士や看護の現場で活躍している卒業生などとの交流を通して、各自の悩みやそれを乗り越えた経験を話し合うことで、看護師として働くことの素晴らしさを再度認識させるとともに希望を持続させていく必要がある。

8 学校アクションプラン

| 平成21年度 富山いずみ高等学校アクションプランー1ー | | |
|-----------------------------|---|---|
| 重点項目 | 学 習 活 動 | |
| 重点課題 | ・学力の向上と定着を図る家庭学習習慣の確立 | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路目標が多様であることから、それぞれに応じた家庭学習の量や必要な学力が異なるため、教科によって成績にばらつきが見られる生徒が多い。 ・生徒の中には、進路目標が明確に定まらないことが、学習意欲に影響を与え、自学自習の習慣が身に付かず家庭学習をしない生徒が見受けられる。 ・H20年度の生徒の授業に対する満足度(アンケート調査)は、3.9/5.0であった。 | |
| 達成目標 | ①家庭学習時間を平均2時間以上にする。 | ②授業の内容を充実させ確かな学力を付ける。 |
| | 実態調査での達成度 70% | アンケート調査で、生徒の授業に対する満足度 4.0/5.0(5点満点で全教科・全生徒平均) |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活パターンを各自で作らせ、学習習慣の定着・改善を図る。 ・担任等による面接を充実する。 ・小テストや課題テストを計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する満足度調査を学期に1回程度実施する。 ・各授業のねらいを明確にして、その目標を達成するための授業の工夫をする。 ・互見授業を年1回以上実施し、授業改善に関する研修会を行う。 |
| 達成度 | 1学期(平日44%休日69%) 2学期(平日40%休日70%) 3学期(平日45%休日72%) [1・2年] | 1学期(4.0/5.0) [全学年] 2学期(3.9/5.0) [3学年] 3学期(3.9/5.0) [1・2年] |
| 具体的な取組状況 | ①週末課題などを適宜課して、学習習慣の定着を図った。 ー各学年の取り組み状況ー (1年)各自の進路目標に向けて、より主体的に予習に取り組めるように指導し平日の学習時間2時間以上確保がほぼ達成できた。 (2年)学習記録簿を一年間通じて毎日書かせ、担任が目を通して積極的に学習に取り組むよう励ました。また学びの動機付けとして検定を勧め、英検は60名、数検は13名が取り組んだ。 (3年)進路目標の達成に向けて、6月より国数英3教科の朝補習を実施し、2学期には理科も実施した。 ②授業のベルが鳴る前に、着席する習慣を定着させるよう促した。 生徒による授業評価を実施し、分かり易い授業になるように工夫した。 | |
| 評 価 | ① C | 休日はほぼ目標を達成することができたが、平日の学習時間が2時間以上の割合は学年によって平均が64%~22%とばらつきがあり目標にはまだまだ達していない。 |
| | ② B | 今年度目標とした4.0/5.0の目標をほぼ達成し、互見授業を年1回実施した。 |
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間平均2時間以上の目標を休日だけは3時間以上に変更してはどうか。 ・学習記録簿が学習効果を増やす効果や、生徒の意欲喚起に繋がると思われるので継続を望む。 ・授業に対する満足度はほぼ達成されていて喜ばしい。少しレベルが高めの授業が有効な場合もあると思われるので工夫してほしい。 | |

| | |
|------------|---|
| 次年度へ向けての課題 | <p>①進路意識の向上を図る方策を確立する。 進路意識が高い生徒は家庭学習時間が十分確保されているが、進路志望が未定の生徒は家庭での学習習慣も身に付いていない。意欲的な学習が身に付くように、進学のための学習だけではなく社会人として必要な基礎学力を身に付ける必要性に気づかせる。また、進路実現に直接関連しない教科・科目に対する意識付けと意義付けの工夫を今後とも図っていく必要がある。</p> <p>②生徒による授業評価や互見授業をもとに、授業内容を工夫し、より分かり易い授業を行う</p> |
|------------|---|

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| | |
|--------|----------------------|
| 平成21年度 | 富山いずみ高等学校アクションプラン2-1 |
|--------|----------------------|

| | |
|------|---------|
| 重点項目 | 学 校 生 活 |
|------|---------|

| | |
|------|--|
| 重点課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・服装規定の遵守と正しい制服の着こなし ・環境整備への積極的な取り組みとゴミ分別の徹底 |
|------|--|

| | |
|-----|---|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・制服の改造や変形を行う生徒は見られないが、流行を追い、制服をだらしく着用する生徒が一部に見られる。 ・ゴミの減量化が叫ばれる中で、本校は以前からリサイクルを推進し成果を上げているが、ゴミの分別をせずに捨てる生徒がいまだに見うけられる。 |
|-----|---|

| | | | |
|------|---|----------------------|----------------------------------|
| 達成目標 | ①服装規定の遵守 | ②環境整備の重要性の認識 | ③自主的に環境整備に取り組む態度の育成 |
| | 服装に関する遵守事項についてのアンケートで「守っている」「ほぼ守っている」と自己評価する生徒の割合 | 環境整備に関する講習会実施の回数 | アンケート結果による、「ゴミの分別を常に心がけている」生徒の割合 |
| | 全校生徒の9割以上 | 教師対象 年1回 生徒対象 年1回 | % |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に服装検査を行う。 ・「制服着こなしセミナー」を実施する。 ・生徒会規律委員会の活動を通して呼びかけ、各自の身なりについて考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講習会、他校生との環境整備に関する交流会を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別・減量化を生徒会・保健委員会を中心に全校で取り組ませる。 |
|-----|---|--|--|

| | |
|-----|--|
| 達成度 | <p>① 1月に実施したアンケートの集計結果では、「守っている」「ほぼ守っている」を合計した割合が88%であった。</p> <p>② 講習会・交流が全くできなかった。</p> <p>③ アンケートの結果80%以上の生徒が分別を心がけていた。</p> |
|-----|--|

| | |
|----------|--|
| 具体的な取組状況 | <p>① 定期的に服装検査を行い、1年生に対して「制服着こなしセミナー」を実施した。また、適宜さわやかな身なりについて注意を喚起した。</p> <p>② 新型インフルエンザの流行により講習会はできなかったが、ゴミ問題を通して環境整備を心がけてきた。</p> <p>③ 委員会活動を通して分別を徹底させてきた。</p> |
|----------|--|

| | | |
|-----|-----|--|
| 評 価 | ① B | 制服のモデルチェンジをして3年になり、さわやかな着こなしが定着しつつある。 |
| | ② C | 講習会や交流会はできなかったが環境整備には積極的に取り組んだ。 |
| | ③ B | ガムの吐き捨て、空き缶の放置などが減少し、生徒の環境整備に対する意識が向上している。 |

| | |
|----------|--|
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・服装規定の遵守はほぼ達成されて、充実した学校生活が送られていると思われる。 ・特別な事情がありやむを得ないが、環境整備に関する講習会等の機会はあればよい。 ・町内のゴミ集積場の実態を言えば、ほんの一人二人の不心得で当番が負担を被る。その意味で「ゴミ分別を常に心がけている」生徒の割合は100%に近いものであってほしい。 |
|----------|--|

| | |
|------------|---|
| 次年度へ向けての課題 | <p>① 制服を正しく着こなそうとする気持ちが、集団に対する帰属意識や、愛校心に結びつくような指導を心がけていきたい。</p> <p>② できるだけ学内外の人々と接触がとれる機会を持つようにしたい。</p> <p>③ ゴミ問題はこれからもずっと考え続けなければならないことであるし、環境美化は大切なこと</p> |
|------------|---|

| | |
|--|-----------------|
| | なので注意を喚起していきたい。 |
|--|-----------------|

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| | | | |
|-----------------------------|---|---|--|
| 平成21年度 富山いずみ高等学校アクションプラン-3- | | | |
| 重点項目 | 進路支援 | | |
| 重点課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の充実 ・確認テストの実施 ・社会人や大学等の先生による講話の実施 | | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」(総合学科)や様々な進路ガイダンスを通して、進路や職業について考察を深めているが、進路に対する意識が希薄なため、家庭学習が習慣化していない生徒がいる。 ・学習態度はまじめであるが、基礎学力が定着していないため、学習活動に困難を感じている生徒がいる。 | | |
| 達成目標 | ①面接指導の充実 | ②社会人・大学教員等による講話 | ③確認テストの実施(1・2学年) |
| | 年 5回以上 | 年 3回以上 | 各学期 1回 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任との面接を充実させる。また担任以外の先生と話す機会を増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な講話を通して多様な考え方や見方を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導を充実し、確認テスト等により、基礎学力の定着を図る。 |
| 達成度 | 担任による面接指導回数 1年：4回/1人 (副担任による面接指導を含む) 2年：5回/1人 3年：5回/1人 | 総合学科 1年：3回9h(24人) 2年：8回11h(32人) 3年：2回3h(2人) 看護科及び看護科専攻科 全体：1回2h(1人) 学年別等：9回22h(12人) | <ul style="list-style-type: none"> ・英語、数学、国語の3教科で各学期に1回ずつ計画的に実施した。 ・学力の定着度が低い場合には、再テストを実施した。 |
| 具体的な取組状況 | ①担任との面接は、 (1年) 高校生の学習生活習慣づくりへの支援及び次学年への科目選択の指導を中心に行った。高校生活に馴染めない生徒への支援を手厚く行ったことで、全生徒への面接が5回以上とはならなかった。 (2年) 学習指導及び進路指導を中心に行った。 (3年) 学習指導及び就職指導、進学指導の進路支援を中心に行った。 ①就職指導については、求職状況の厳しさもあって、より丁寧な指導を行った。また、進学指導の面接・小論文指導についても全職員の協力を得て計画的に行った。 ②社会人や大学教員等による講演、出前講座の模擬授業が多数実施され、好評であった。上記には入らないが、2年保護者対象の「進学マネープラン」の講演を行い、好評であった。また他に上級生との進路懇談会も開催した。 | | |
| 評 価 | ① B | 担任等による面接指導は、ほぼ例年通り実施された。 | |
| | ② A | 講演等は23回(71名の外部講師)実施し、生徒の進路意識を高めた。 | |
| | ③ A | 確認テストは、毎学期計画的に実施された。 | |

| | |
|------------|---|
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・面接は学習効果を向上させる効果があり、回数多く実施されている現状を継続してほしい。 ・社会人講師等の講演会な内容を HP で紹介してはどうか。 |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の資質が多様化している中で、担任をはじめ部活等の場面などを通してよりきめ細かな面接指導が求められる。 ②学習生活習慣の定着と基礎学力の定着は密接に繋がっている。家庭学習の指導などの丁寧な指導が不可欠である。 |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成21年度 富山いずみ高等学校アクションプラン-4-

| | | | | |
|----------|--|---|--|--|
| 重点項目 | 特 別 活 動 | | | |
| 重点課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動の充実 ・部活動の充実 ・読書意欲の向上と読書習慣の定着化 ・生徒図書委員の活動の充実 | | | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部や参加希望者を中心にボランティア活動や地域の活動へ参加する機会が増えているが、これら体験的な活動に、一層多くの生徒が参加するよう意識の喚起が求められる。生徒を主体とした企画運営に努める必要がある。 ・部活動の加入率は高く、活動の成果も徐々に上がっているが、生徒の自主的活動においていくつかの問題がある。そのため部長等のリーダーを中心とした組織的な活動をより充実させることが望まれる。 ・生徒一人あたりの年間読書冊数は、増加している。しかし、読書量の個人差が大きく、読書意欲に乏しい生徒もいる。 ・生徒図書委員会の活動は活発であり、責任感を持って取り組んでいる。 | | | |
| 達成目標 | ①ボランティア活動を含む体験的な活動に参加する生徒の延べ数 | ②活動のリーダーに対する研修会 | ③年間読書冊数 | ④生徒図書委員会による企画展の開催 |
| | 在籍生徒数の80%以上 | 年 3回 | 一人8冊以上 | 年 5回 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動や応援態勢づくりをし、活発化させる。体験的な活動に対するアンケートを実施し、生徒の関心度を調査するとともに意識を高揚する。 ・生徒会が中心となって校内での活動を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新チームのリーダーを対象に研修会を行う。 ・効率のよい活動の仕方や活動の企画・運営の重点を認識させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「LIBRARY」の発行など、機会を捉えて図書を紹介する。 ・「統一HR」や「朝読書」の実施、「読書履歴カード」の記入などを通して読書意欲の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・関心・興味のあるテーマを設定し、内容を充実させる。 ・展示の仕方を工夫する。 |
| 達成度 | 参加者延数：685名 (在籍数 596名) | 運動部活動講習2回 | 全学年一人平均7.2冊(1/2学期) 1/2学年一人平均10.6冊(1年間) | 年 6回 |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ①「ボランティア意識を持っているが、実践がともなわない生徒への働きかけ」として、生徒会主催による学校周辺の美化活動を定例化した。 ② 運動部活動講習を2回、部長会議を5回実施した。 ③「朝読書におすすめの本」を冊子にして各教室に配布した。また「LIBRARY」の発行やブックレビューの掲示など、読書への興味や関心を高める取り組みを行った。パソコンを使って本校図書館の蔵書検索ができるように整備した。 ④生徒図書委員が企画展のテーマを考え、積極的に取り組んだ。 | | | |
| 評 価 | ① A | 生徒会の取組として位置付けしたものに対する参加者が増加した。 | | |
| | ② C | 1学期末に実施できなかった。 | | |
| | ③ B | 1・2年生の年間読書冊数は、一人平均10冊である。 | | |
| | ④ A | 学校行事と関連した企画展を追加した。 | | |

| | |
|------------|---|
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加者が増加したことは素晴らしい。思いやりや社会性が身に付いた有為な人材として育てほしい。 ・図書館に生徒の読みたい本が揃えられているのか。生徒の要望も反映されるような選書も大切だと思う。 |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ①生徒会主催行事に参加しやすい工夫をする。(個人としての参加者の増加を目指す) ②部活動の体制が変わる時期に研修会を実施する。 ③学年や各分掌との連携を密にして、さらに読書意欲の高揚を図る。 図書館の貸し出し・返却のシステムを簡便にし、図書館利用を促進する。 ④広報活動のあり方を考える等、生徒図書委員の充実した活動を支援する。 |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

| | |
|-----------------------------|--|
| 平成21年度 富山いずみ高等学校アクションプラン-5- | |
| 重点項目 | 進路支援(看護科教育の充実) |
| 重点課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の充実による普通教科科目および専門教科科目の基礎学力の定着と向上 ・看護師国家試験合格を目指した学習指導の確立 ・専門教科への興味関心の涵養 ・専攻科生の進学・就職指導の充実 |
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年一貫教育では、専攻科への入学試験がないため高校から専攻科へ希望者全員が進学する。そのため基礎学力が十分でないまま進学する生徒もおり、これが原因で進路変更する生徒がいる。 ・国家試験合格率は、昨年度100%を達成したが今後も維持継続が必要である。 ・専攻科卒業後、保健師・助産師・養護教諭養成機関への入学を希望している生徒がいる。 |
| 達成目標 | ①看護師国家試験合格率 |
| | ②進路希望達成度 |
| | 100% |
| | 100% |
| 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験に合格する学力と、臨地実習に対応できる力を養うため5年間を見通した指導法の工夫を図る。 ・看護師国家試験の出題基準や内容の改訂に沿った指導をする。 ・進路に関する情報を提供するとともに希望する進路に向けて個別指導を強化する。 ・専門職種としての興味関心を高める教科指導法および看護科行事の一層の改善を図る。今年度は、看護診断のエキスパートによる講演会を実施する予定である。 ・生徒の意識調査を分析し、悩み等に対する面接の充実を図る。 |
| 達成度 | ① 100% |
| | ② 希望進学先合格・・・75% 就職内定・・・100% |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校1年生から、新教育課程になったこともあり毎週もっている教科会議で5年間を見通した指導計画を作成し、看護科目間の共通理解を図った。 ・臨地実習先の指導者との連携を図るとともに、実習上の問題点や課題について検討する機会を設け、次年度に向けての指導法の改善に努めた。 ・看護科行事を念頭に置き、専門職種の講師による講演会を実施して生徒の興味・関心を高めるよう努めた。また、専攻科生徒の球技大会等による生徒・職員間の交流を図り、学習に取り組みやすい雰囲気作りをした。 ・看護科・専攻科全生徒の意識調査を例年と同様に実施し、調査分析結果の確認をした。 ・国家試験新出題基準について、資料を配布し周知徹底を図った。また、国家試験対策の特別授業を計画し放課後等を実施した。 ・就職や保健師、助産師学科進学希望者に対し、卒業生を迎え進路懇談会を実施するとともに、小論文や面接等の個別指導を行った。 |
| 評価 | ① A 国家試験の出題基準の改定があり、全国の合格率(89.5%)が低下しているなかで、本 |

| | | |
|------------|-----|--|
| | | 校看護科は 100%であった。 |
| | ② B | 助産師学科の一般入試倍率 7 倍の中 2 人受験し、1 人が希望達成できなかった。 |
| 学校関係者の意見 | | ・昨年度 2 つの目標が 100%を達成したことは、大変すばらしい。今年度も期待したい。大変困難なことであり、敬意を表したい。 |
| 次年度へ向けての課題 | | <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の学年進行に伴い、看護各科目間の連携を図り指導内容の再検討や精選および指導法を工夫する。また、新教育課程対応の臨地実習要項を作成し、実習施設との連携や実習指導の充実に努める。 ・生徒の意識調査の結果を踏まえ、生徒の看護学習に対する意欲や関心を向上させる教科指導や看護科行事の工夫・改善を図るとともに、悩みを抱える生徒に対する面接指導を強化・工夫する。 |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)